

2011 年 12 月 28 日

卓越した学習サービス (Excellence Performance Learning Services) を北関東のすみずみに
－ 2012 年の抱負、経営戦略、将来の経営ビジョン－

開倫塾
塾長 林 明夫

Q : あけましておめでとうございます。2012 年の抱負は何ですか。

A : (林明夫 : 以下省略)

- (1) 「卓越した学習サービス (Excellence Performance Learning Services)」を栃木、群馬、茨城など北関東のすみずみに提供させて頂くことです。
- (2) 開倫塾は、日本経営品質賞の地方版である「栃木県経営品質賞」の知事賞と「ハイサービス日本 300 選」の受賞企業でありますので、昨日よりは今日、今日よりは明日という形で、少しずつでもよいから一步一步改善活動を積み重ねながら経営の品質を高め、「卓越した教育サービス」を目指したく考えます。
- (3) 「卓越した (Excellence Performance)」とは、開倫塾の顧客である「塾生、保護者、地域社会」の皆様にお役に立つという意味です。
- (4) 「学習サービス (Learning Services)」とは、「うんなるほど」と十分に「理解」した内容を正確に身につくまで教育・訓練を施し、学校での成績向上や希望校合格、資格取得、就職、社会での活動に役立てられるまでに「応用」力を育てるということと考えます。
- (5) 開倫塾の提供する「学習サービス (Learning Services)」の内容は、「学校教育や家庭教育、社会教育で不足する学習を補うことすべて」と、2012 年 1 月 1 日、つまり今日から定義いたしたく思います。

Q : 「学習サービス」を Learning Services と英語で表現なさっておられますが、あまり聞き慣れない表現ですね。

- A : (1) ISO (国際標準規格) の「非正規教育 (Non Formal Education)」の 29990 シリーズが、大議論の末に、「学習サービス Learning Services」と名称変更になることがほぼ決定されたと聞き及びました。
- (2) 私も、学習塾の教育内容は、「理解」したことを教育・訓練で「定着」させ、それを学校の勉強や進学、社会での活動に役立てる「応用」力の育成と考えておりましたので、日本語での「学習サービス」、英語での Learning Services という表現は素晴らしいと考えます。
 - (3) そこで、開倫塾の事業領域 (企業ドメイン) を、従来の「学校教育を補う教育」から少し広げて、「学校教育や家庭教育、社会教育で不足する学習を補う学習サービスのすべて」と変更すること

にいたしました。

(4)開倫塾は、今後、「学校教育」だけではなく、少しずつですが「家庭教育」や「社会教育」の内容のうち、よく「理解」した内容の「定着 Learning」つまり教育・訓練に事業領域(企業ドメイン)を拡大し、「卓越した業績(Excellence Performance)」を目指したく考えます。

(5)以上が、2012 年新年の抱負です。今後、この考え方を、開倫塾の社員の皆様、ビジネスパートナーの皆様、そして何よりも、開倫塾の顧客である塾生・保護者・地域社会の皆様に少しずつ御説明させて頂いて、御理解を深めて頂きたく、また、皆様からの御意見をお聞かせ頂きたく、考えております。

Q：開倫塾の2012年の経営戦略は何ですか。

A：(1)塾生の学力を一人残らず飛躍的に向上させ、学校成績の向上、希望校の合格を図るためにありとあらゆる努力を尽くすことです。

(2)塾生一人ひとりの学力向上なくして開倫塾の存続なし、校舎の存続なしと考え、全力を尽くします。

Q：学力を向上させるためにはどうしたらよいのですか。

A：(1)「教育の成果を決定する要因」とは何か。私は、「本人の自覚」と「教師の力量」と考えます。

(2)学習者本人は自分自身を見つめ直し、自分の長所や克服すべき点をよく認識する。長所は限りなくどんどん伸ばす。克服すべき点は、少しずつでもよいからゆっくりと、一生かけてでもじっくり克服する。何のために生きるのか。何のために学ぶのか。何のために進学し、進学して何をするのか。何のために資格を取り、資格を取って何をするのか。何のために就職するのか、就職して何をするのか。それらを人生の節目、節目に自分の力で真剣に考え、その考えを自分なりにまとめ上げる。これが「本人の自覚」と私は考えます。

(3)「教師の力量」とは何か。自分が教えることになった児童・生徒・学生の潜在可能性を発見し、引き伸ばすことができることと考えます。必要なことをわかりやすい方法で「うんなるほど、これはこういうことだったのか」と「理解」させることも、教師にとって大切な力量です。一度「うんなるほど」と「理解」したことを、スミからスミまで身につける、「定着」させる「教育・訓練」を施すことは、更に大切な教師にとっての力量です。「理解」、「定着」したことを「応用」して、成績を向上させること、試験に合格させること、それらを社会で用いる力をつけさせることは、最も難しい教師にとっての力量だと考えます。

(4)「本人の自覚」と「教師の力量」が上手に組み合わせられたときに、「教育の成果」が表れるものと考えます。ただ、残念なことに、「自覚」をするように言ってもなかなかできないことが多いので、「本人の自覚を促す」ことも「教師の力量」として開倫塾では考えることにしました。

(5)そこで、「本人の自覚」を促すために、開倫塾では、授業時間中に1回3分以上の「武者語り」^{むしやがた}の時間を、必ず、設けております。

(6)以上のような方法で、2012年は、学習者「本人の自覚」を深めることと「教師の力量」を最大化することを、経営戦略の中心にしたいと考えています。

Q：開倫塾は今、何校舎あるのですか。この校舎数を2012年はどうする予定ですか。

A：(1)昨年10月に群馬県に桐生相生校、11月に茨城県に守谷校を開校しましたので、2012年1月1日現在、栃木、群馬、茨城に64校舎あります。

(2)2011年度末の本年3月に若干の統廃合を進めた上で、2012年度中に68校舎までもっていき、2013年度のピーク時には目標の塾生数1万名を目指したいと考えています。

Q：最後に、将来の経営ビジョンをお聞かせ下さい。

A：(1)68校舎で塾生数1万名が達成される見込みが立ちましたら、栃木、群馬、茨城など北関東のすみずみに開倫塾を展開するために、3ケタ校舎、つまり100校舎以上を目指します。

(2)「学習サービス(Learning Services)」の質を決定するのは、以下の通りです。

- ①「カリキュラムの質」
- ②「教師の質」
- ③「マネジメントの質」

(3)この3つの質を「昨日よりは今日、今日よりは明日」「昨年よりは今年、今年よりは来年」という「少しずつだが着実に」の考えでゆっくりと「改善活動(improvement activity)」を積み重ね、「卓越した業績(Excellence Performance)」の「学習サービス(Learning Services)」を目指したいと考えています。

(4)今後は、この3つの質の充実を考えながら「標準化」を進め、100校舎突破を目指します。

(5)そして、ゆくゆくは、「東京の川の手地区」や「埼玉県の北部や東部の一部」にも進出し、面的な展開(水平拡大 Horizontal Expansion)を果たしたいと考えています。

(6)同時に、このような開倫塾の「学習サービス(Learning Services)」をアジアやアフリカ、世界の新興諸国にも広げたいと考えています。開倫塾のRole Model、お手本は、公文(kumon)さん、QBハウスさん、ファミリーマートさん、ヤマハ音楽教室さん、そして何よりも、日本の製造業の皆様です。遅れてきた者(Late comer)ですが、開倫塾も世界を目指します。

(7)開倫塾は、お陰様で2012年10月に創立33年目に入ります。また、私が担当させて頂き毎週土曜日午前9時15分から25分まで放送の「開倫塾の時間」は、2012年3月で26年目に入ります。

本年もどうかよろしくお願いたします。

以上

－ 2011年12月28日記－